

実践報告⑧1

聖隷沼津病院における 医療ソーシャルワーカーの役割

一般財団法人芙蓉協会 聖隷沼津病院
医療相談室 草薙朱音

1. 病院の概要

「芙蓉協会」は、1948年ダンフォース財団の寄付により、1949年に設立しました。1950年には「芙蓉病院」が発足され、1957年に日本基督教診療所による全面支援開始により、「緑町病院」と名称を変更しました。



芙蓉病院

その後の1982年、以前より経営協力関係のあった社会福祉法人聖隷福祉事業団のグループ関連施設となり、「聖隷沼津病院」と現在の名称へと変更がされました。

当院は静岡県東部に位置する沼津市の真ん

中、千本浜の海沿いにあります。当院所在地の医療体制としては、2市2町で構成された医療圏内にて、4カ所の総合病院と単科の中規模病院とで機能分化することで開業医との連携を図り、地域の医療を担っている状況です。

その中で、当院は総合病院として一次、二次救急医療を提供しています。

〔概要〕

*病床数	246床
一般病棟	167床
地域包括ケア病棟	74床
NICU	5床
透析センター	60床
*診療科	内科 循環器内科 小児科 産婦人科 外科 呼吸器外科 形成外科 皮膚科 整形外科 脳神経外科 泌尿器科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 歯科口腔外科

当院の医療的特色としては、導入を含めた透析対応が可能であり、NICU施設を含めた小児医療・小児救急対応を行っていることが挙げら

れます。また、形成外科と口腔外科の常勤医師がおり、それぞれの疾患に対応し入院治療を行っていること、さらに、地域包括ケア病棟も併せ持ち、退院後を見据えた調整や支援ができることも特徴です。

2. 病院内における医療相談室の位置づけと役割

現在、医療相談室にはMSWとして社会福祉士4名が所属しています。地域連携部に属しており、院内連携・地域連携を行う部署として活動しています。主には、当院に通院・入院される患者・患者ご家族、地域からの相談対応や、在宅支援室の退院調整看護師と連携をして入退院支援を行っています。

また、病院全体として強化しているチーム医療の活動（リエゾンサービス、認知症ケアチーム、療育支援チーム）にもMSWとして積極的に活動に参加しています。

3. 医療相談室への相談の特徴

医療相談室への相談は、転退院相談が最も多く、他にも無料低額診療事業を含む医療費などの経済面の相談を行っています。寄せられる相談内容はさまざまな要因が重なったものが増加しており、支援も複雑になっている状況にあります。

支援内容が複雑になる背景要因として、まず、介護者自身の高齢化が挙げられます。沼津市は

高齢化率が30%を超え、当院のある地区においては37%を超えており、地域として高齢化が進んでいることがわかります。

また、キーパーソンが遠方在住または高齢の兄弟であり、サポート力として希薄であることや、8050問題の如く同居の子世代がひきこもりや障害を抱えており、生活の転換期となっている状況、そして経済的にゆとりのない世帯が多いことも挙げられます。

さらに、そのような生活・経済背景から在宅生活が限界となりつつもやむを得ず継続している状況といった要因もあります。

このような要因の多くは、経済的困窮状態、身寄りなしの高齢者、介護力不足やキーパーソンが患者の状況の理解・受容が出来ないなどの複数の要素を併せもっています。

地域において何らかの理由により、問題が見落とされているというような支援の必要なケースが、入院することで明らかになってきています。またここ数年において上記のような複数の要素を含んだ退院支援が更に増加し、複雑な社会的背景や課題への支援が必要となっていると感じています。

これらの支援・課題はすぐに解決できるものではなく、在宅で過ごす段階から見極め、関係機関と連携しながら取り組んでいくことが望ましいと考えています。



聖隷沼津病院

4. 医療相談室の取り組み

複雑化する退院支援に対応していくためには、院内連携はもとより地域連携が重要となることは誰もが感じていることだと思います。

連携強化については、在宅支援室の退院調整看護師と年2回程度、連携している医療機関や介護施設に出向き、日頃のやりとりの問題点の共有などを行うことで連携強化を図る活動を行っています。また2018年より年3回、地域のケアマネージャーとの勉強会を含めた連携懇話会を開催しています。

懇話会の内容としては、毎年1年を通してテーマを設け、院内スタッフによる講演とグループワークを行っています。コロナ禍においては、会の中止もありましたが、オンライン開催も取り入れました。また、今年度は対面での再開に至っています。

自分達が主体となって地域のケアマネージャーと直接会い、話し合う場を設けることによって、ケアマネージャーの理解度や連携を図る上でどんなことに困っているのか明確にすることができています。また、連携や理解を深めるために、どのようにケアマネージャーに働きかけをしたらよいのか考えるきっかけとなっています。さらに、懇話会に参加したケアマネー

ジャーが担当しているケースについても意見交換ができることで、以前支援し地域移行したケースの経過の把握や、新たな課題等の有無が確認でき、退院後も継続的な関わりを持つことができていていると感じています。

定着してきた連携懇話会を今後も継続していくことで、更に連携強化になっていけば良いと思います。

5. おわりに

当法人「芙蓉協会」の由来である、「芙蓉」とは富士山の古称である「芙蓉峰」から名付けられました。「天高くそびえる芙蓉峰（ふようほう）の如く、偉大なる未知数である未来に向かって前進し、人類の幸福と社会福祉に積極的に貢献すること」が祈念されています。これは、病院の理念「私たちは、利用される方々にチームワークにより生み出される価値ある医療サービスの提供を目指します」に繋がります。

日々の業務に追われるだけでなく、医療相談室として発信できることを考え、先人の思いを受け継ぎ、支援を必要とする方々に寄り添った働きかけや活動ができるよう、これからも努力していきたいと思っています。

